

# 原市小だより

上尾市立原市小学校  
令和3年 8月25日  
学校だよりNo. 6 9月号  
編集責任者 校長 豊田 好伸

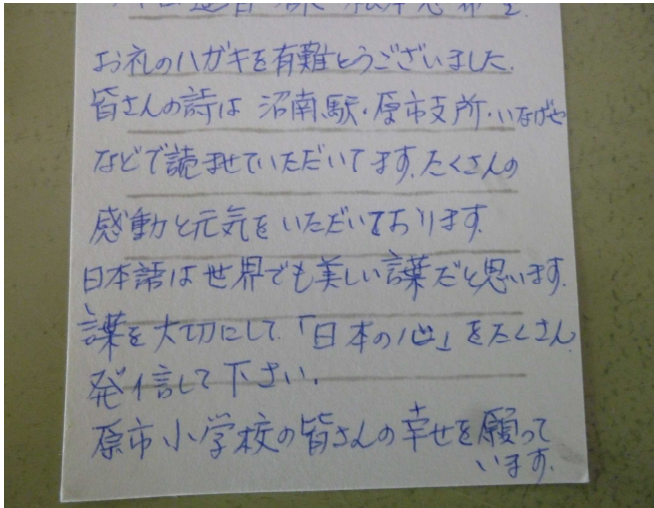


学校教育目標 「豊かな心を育み、自ら学びたくましく生きる子」  
カラー版は [上尾市立原市小学校](#) [検索](#) から  
(原市小ホームページ)

「言葉でつながる ～小さな小さな取り組みから～」

校長 豊田 好伸

当初、暑い暑いと思っていた夏休みも8月中旬には天候不順となり、治まる気配のないコロナに緊急事態宣言も延長となりました。さくら連絡網でお知らせしたとおり、林間学校は10月に延期となります。2学期も多くの行事がありますが、CKプログラムをしっかりと実施し、子どもたちの教育活動を確保したいと考えておりますので、保護者の皆様には、これからもご支援、ご協力をお願いいたします。児童の皆さん、2学期も頑張っていきましょうね。



さて、本校では上尾市教育委員会から委嘱を受け、国語科を課題研究として取り組んでいきます。その中で子どもたちに詩を書かせる取組を行っています。現在では校内だけでなく、地域の数カ所にも掲示し、地域の皆様にも読んでいただけるようにしています。そして、子どもたちの励みにもなると考え、感想BOXも置きました。感想をいただく中で、住所を記入した方には詩の作者(児童)がお礼の手紙を送ります。地域の方と繋がることができれば良いな、と始めた取組です。

先日、お礼を出した方からお手紙が届きました。(左の写真)とても温かい内容で、子どもだけでなく、本校教職員も大変嬉しい気持ちになりました。前述したように、詩を読んでい

ただいた方と言葉の表現をした子どもたちが、細い糸でつながれたことは素晴らしいことだと思います。とても小さな取組かもしれませんが、こうしたことが重なれば、いつかは細い糸も太くなっていきます。何よりこうしたお手紙をいただくことができた子どもたちの心には、温かな記憶が残るに違いありません。そうした子どもたちが、言葉の大切さに気付き、言葉で自分の気持ちを更に表現しようとしてくれたら、私たちの研究も実になったと言えると思います。

これからも言葉にこだわった、言葉を大切にしたい授業改善に原市小は取り組んでいきます。

## 「価値付け」という言葉

今年の夏は感染予防のための自粛生活でしたので教育書をかなり読むことができました。その中で「価値付け」という言葉があり、改めて大切だなと感じましたので紹介したいと思います。この言葉は教師の指導場面で使う言葉です。例えば、挙手させたいと考えているA担任がいるとします。A担任は「手を挙げなさい」と指導しますが、なかなか思うようにいきません。B担任は手を挙げた児童を褒め、手を挙げることで得ること、自分が成長できること、知識が定着することなどを心を揺さぶるように話します。子どもたちは「手を挙げる」ことの大切さに気付き、少しずつ変容していきます。このB担任がしたことが「価値付け」です。ご家庭でも同じようなことはありませんか。大人が子どもにどう価値付けするか、日々の小さな取組ですが、継続することで大きな変容を生みます。大切なことは「心を揺さぶるように話す」ことです。原市小の子どもたちは何に価値を見いだしているのでしょうか。

